

技術・家庭科（家庭分野）研究部会

I 研究主題

未来社会を展望し、生活を創る力を育てる技術・家庭科教育
～自ら課題に気付き、地域と関わる力を育む指導の工夫～

II 研究テーマ設定の理由

3年前から「A家族・家庭と子どもの成長」の内容に目を向け、「体験的な学習」を取り入れた授業の実践を目標にして研究を進めてきた。そして、昨年度からは授業の題材を「家族と家庭生活」の中の「家庭と地域のつながり」にしぼり、生徒に自分の住んでいる『地域』に関心をもってもらうための課題をつくり市内各校で実施した。

昨年冬の大雪では中学生も近隣の雪かき作業を経験し、囃らずも地域の方々と交流する機会があったり、地域の現状に触れ課題について考える機会になったりもした。そこで、今年度は「地域について知ろう」という課題から一歩進んで、「地域に関わる活動をしよう」という実践に取り組みさせる事にした。また、実践した内容を『ナラティブ』という形式で記述させることで、自分の体験を振り返り、体験活動を共有化する授業を創りたいと考えた。

今後は、『ナラティブ』で記述した内容をどう分析させるか、教師がどう評価するかを考え、授業の実践に結びつけていく予定である。

III 研究の経過

- 4月10日 研究組織づくり・研究テーマの確認
- 5月15日 研究内容の検討とグループ分け
- 6月17日 指導案・ワークシートの作成
- 8月 7日 授業計画の見直しと指導案・ワークシートの検討
- 8月20日 指導案・ワークシートの検討と授業実践の計画作成
- 9月 4日 実態調査の修正と実施計画
- 10月 2日 県教研レポートの検討
- 11月 4日 県教研の還流報告とワークシートの検討
- 1月20日 今年度のまとめと反省・来年度の研究内容の確認

IV 研究推進員

網倉 玉枝 (北新小)	深澤 茉莉 (西中)	成嶋 久代 (南西中)
清水 恵理 (南中)	田原 睦美 (北中)	有賀 多恵 (北東中)
石原 幸子 (上条中)	粟冠 真理奈 (城南中)	田澤 久仁子 (城南中)
萩原 佳子 (富竹中)	星 栄子 (笛南中)	河野 美由紀 (附属中)
清田 礼子 (東中)		

V 研究内容

1. 指導計画の見直しと評価規準表の作成

3年間を見通した指導計画を作成した時には「家族と家庭生活」の内容を、①地域の学習

をする前に「地域の活動に参加しよう」の課題を与えてもその課題の意図が伝わりにくく、計画の作成が難しいであろう。②生徒が体験してきた活動の振り返りや共有化を図るためには、課題のナラティブを分析して、発表会に向けて準備をする時間がもう少し必要になるであろう。と考え、時数を再検討した。

2. 3年間を見通した指導計画の作成

「A家族・家庭と子どもの成長」の内容を充実させるために、以下の点に留意して2014年度入学生のための3年間を見通した指導計画を作成した。

- ・「家族と家庭生活」の内容を7時間で計画する。
- ・実践する授業の対象を2年生とし、2年時の2学期に「生活の課題と実践」の発表会を位置づける。
- ・「生活の課題と実践」の実践は2年時の夏休みを利用して行わせる。
- ・夏休みに実践できるよう1学期中に計画を作成させる。

VI 成果と課題

〈成果〉

- ・実践する授業の題材を決定することができ、授業の方向性が見えてきた。
- ・昨年度の実態調査で地域にあまり関心をもっていなかった生徒も多かったが、聞き取り調査の課題をさせることで少しずつ地域に目が向けられるようになった。
- ・生徒のレポートを通じて、教職員自身が勤務校の地域について知ることができた。
- ・昨年度の実態調査アンケートや今年度の聞き取り調査の課題を位置づけながら、3年間を見通した指導計画を作成することができた。
- ・志村准教授の講演によって、私たちが行おうとしている「家庭と地域のつながり」における課題解決学習が、社会の一員としての自覚につながる大切な学習であることを認識することができた。

〈課題〉

- ・聞き取り調査の課題では「自分の住んでいる自治会」を想定して実施したが、自治会に入っていない家庭もあり、地域の範囲を「甲府市」まで広げて考えることも必要である。
- ・「生活の課題と実践」の中で、生徒が設定する課題を想定し、教職員がその課題を手助けしてもらえる機関（各地域の自治会、市役所、ボランティア団体等）とのつながりをもっていなければならない。
- ・今回実施した聞き取り調査のレポートが、「生活の課題と実践」の課題設定の参考となるように提示の仕方を工夫していく。
- ・「家族と家庭生活」の部分における評価規準を作成する。
- ・指導案およびワークシートを作成し、その指導案とワークシートを実際に使用した授業を実施してみる。